

民間からの資金協力

国際文化交流事業は、国民間の相互理解を深め、持続的な友好関係を維持することを主たる目的としていることから、事業の実施にあたっては広く国民的基盤に立って行っていきたい。

また事業の財源の面においても、政府のみならず企業、団体、個人等の民間各界よりの協力を得られるよう、独立行政法人国際交流基金は民間各界に対し出えん金、寄附金、物品供与等の様々な形態の支援をお願いしている。

民間からの当基金に対する資金提供の形態には、出えん金、寄附金の2通りがある。このうち出えん金は政府出資金とともに事業費を生み出すための運用元本を形成している。また、寄附金には、当基金が実施する文化交流事業の経費に充当される一般寄附金及び国内外の公益団体が実施する特定の文化交流事業に対する助成金の原資とすることを前提に受け入れる特定寄附金とがある。基金設立以来2005年度末までの一般寄附金受入額は22億7,787万円、特定寄附金は623億6,816万円にのぼる。

1. 一般寄附金

基金の実施する文化交流事業の事業費に充当される寄附金。寄附の時期、寄附額とも任意の「一般寄附金制度」、民間企業等に毎年定額の寄附をお願いする「法人会員制度」「賛助会」、基金事業への関心や理解を深めてもらうことを主眼とした「JFサポーターズクラブ」の3つがある。2005年度の一般寄附金実績は、1,163件、5,462万円(入金ベース)である。

(1) 一般寄附金制度

時期、寄附額とも任意でいただく寄附金。

寄附者の意向に従って寄附された年度の事業費に充当する方式と、当該寄附金を恒久的にファンド(運用資金元本)に組み入れ、その利息を毎年の事業費に充当する方式とがある。

後者の場合、寄附者の希望及び寄附額によってはこれを以って特別事業を行い、事業名に寄附者(法人・個人を問わない)の名を冠する「冠寄附」とすることもできる。現在までの例は次のようなものがある。

・「内田奨学金フェロウシップ」[寄附者:内田元亨氏(故人)]

米国・欧州等の若手音楽家を我が国に招へいし、我が国の著名な音楽関係者との交流を行うとともに共演、共同制作に従事する機会を与える。

2005年度は、米国及びフランスより、各1名のフェロウを招へいした。(担当:芸術交流部舞台芸術課)

・「高砂熱学工業・日本研究奨励スカラシップ」[寄附者:高砂熱学工業株式会社]

東南アジアの日本研究振興のために東南アジアの若手日本研究者に対し、訪日して研究に従事するための資金を提供する。

2005年度は、マレーシアの研究者による「東アジアの地域主義とマレーシア・日本2国関係」をテーマとした研究に対し奨学金が提供された。(担当:日本研究・知的交流部アジア・大洋州課)

・「開高健記念アジア作家招へい講演会」[寄附者:開高初子氏、開高道子氏(作家開高健氏のご遺族、いずれも故人)]

日本であまりなじみのないアジアの文学者とその作品を一般の方々で紹介するとともに文学関係者同士の交流を促進するため、アジアから作家、文学関係者を2週間程度日本に招へいし、日本各地で講演会や意見交換を実施する。

2005年度は、バングラデシュよりイムダドゥル・ホク・ミロン氏を招へいし、「バングラデシュ人の誇りと苦悩」をテーマとした講演会を広島、東京、大阪、仙台にて開催した。(担当:文化事業部市民青少年交流課)

・「渡辺健基金」図書寄贈[寄附者:渡辺行信氏(米国研修中に事故で逝去された元外務省職員渡辺健氏のご遺族)]

中国 天津社会科学院及び吉林省社会科学院に日本研究のため

の図書を寄贈する。

2005年度は、天津社会科学院に223冊、吉林省社会科学院に135冊の図書の寄贈を行った。

(担当:日本研究・知的交流部アジア・大洋州課)

《一般寄附者》(五十音順、敬称略)

愛知製鋼(株)、(学)岩崎学園、上野トランステック(株)、川本工業(株)、(株)クボタ、(株)神戸製鋼所、(株)サカタのタネ、山陽特殊製鋼(株)、(株)資生堂、新日鐵住金ステンレス(株)、新日本製鐵(株)、JFEスチール(株)、住友金属工業(株)、住友電気工業(株)、太平洋金属(株)、大同特殊鋼(株)、タカナシ乳業(株)、中央電気工業(株)、東京ビジネスサービス(株)、(株)東北新社、東北特殊鋼(株)、東洋鋼板(株)、トピー工業(株)、(財)直島福武美術館財団、(株)中山製鋼所、日興コーデリアル証券(株)第一公益法人部、日新製鋼(株)、日鉄鋼板(株)、日本金属(株)、日本金属工業(株)、日本高周波鋼業(株)、日本重化学工業(株)、(株)日本製鋼所、日本電工(株)、日本冶金工業(株)、日本郵船(株)、パナソニックモバイルコミュニケーションズ(株)、日立金属(株)、(株)不二越、普通鋼電炉工業会、(株)松尾工務店、三菱製鋼(株)、森ビル(株)、(株)横浜銀行、(株)淀川製鋼所、ライオンズクラブ国際協会330-B地区、(株)ロイヤルホール、(株)ワコール、JR東海モニター会員1,926名、ほか個人2名

(2) 法人会員制度(「賛助会」)

毎年一定額の寄附金を企業、団体より会費としていただく制度。「賛助会」の会員は、普通会员と特別会員に分かれ、前者は1口(法人10万円)以上、後者は5口以上の協力をお願いしている。

納入された賛助寄附金はその年度の文化交流事業に充当し、会員に対しては、基金出版物の配布、基金主催・共催の講演会等催し物への招待、基金図書館利用等の特典を供与している。2005年度末の会員数は60団体である。

《賛助会員》(五十音順、敬称略)(2006年3月31日現在)

(特別会員)

(株)講談社、松竹(株)、電源開発(株)、(株)三菱東京UFJ銀行、(株)みずほ銀行、(株)ワコール

(普通会员)

(財)池坊華道会、出光興産(株)、(株)印象社、ウシオ電機(株)、(財)NHKインターナショナル、カトーレック(株)、(株)関西アーバン銀行、(株)紀伊國屋書店、共栄火災海上保険(株)、近畿日本ツーリスト(株)、講談社インターナショナル(株)、(財)講道館、(社)国際交流サービス協会、(株)国際サービスエージェンシー、コスモ証券(株)、(学)駒澤大学、(財)裏千家今日庵、(株)桜映画社、(株)資生

堂、(株)ジャパンエコー社、(社)出版文化国際交流会、(財)少林寺拳法連盟、スターレーン航空サービス(株)、(財)全日本剣道連盟、第一生命保険相互会社、(株)第一成和事務所、ダイキン工業(株)、大和証券SMBC(株)、(株)電通、東京工業品取引所、(株)東京スタデオ、東京ビジネスサービス(株)、日興コーディアル証券(株)、日新火災海上保険(株)、(社)日本映画製作者連盟、(株)日本折紙協会、(財)日本国際協力センター、野村証券(株)、(株)ビコン、(株)美術出版デザインセンター、(株)日立製作所、(株)ビデオ・ペディック、富士ゼロックス(株)、(株)フジテレビジョン、(株)凡人社、本田技研工業(株)、松下電器産業(株)、みずほインベスターズ証券(株)、みずほ証券(株)、(株)三井住友銀行、三菱UFJ証券(株)、(株)明治書院ホールディングス、森ビル(株)、(財)ワイ・エフ・ユー日本国際交流財団

(3) JFサポーターズクラブ

個人を対象として基金事業への理解促進と協力の拡大を目的とする会員制度。年会費(フレンド1,000円、アソシエイト3,000円、パートナー10,000円)が、基金に対する寄附金として受領される。

2. 特定寄附金

国内または海外の公益団体が実施する特定の文化交流事業に対する助成金の原資となることを前提に受け入れる寄附金。対象となる事業は、人物交流、海外における日本研究や日本語教育、公演、展示、セミナー及び国際会議等の催し、日本文化を海外に紹介するための視聴覚資料に係る事業、国際文化交流を行うために必要な調査及び研究を行う事業、国際文化交流を目的とする教育及び文化活動のための施設に対する援助に係る事業である。

2005年特定寄附金受入実績は、47件、9億6,494万円(547名の個人及び460の法人・団体よりの寄附を受入)であり、これを原資に以下の32件の事業に助成金を交付した。

《2005年度支援事業》

- ロータリー国際親善奨学支援事業①(米国)
- ロータリー国際親善奨学支援事業②(米国)
- アジア・カルチュラル・カウンシルの日米芸術文化交流プログラム基金(米国)
- アルバータ大学高円宮殿下日本カナダ記念基金(カナダ)
- ミシガン大学ロー・スクール日本法研究プログラム(米国)
- ハーバード・ロー・スクール日本法・文化研究プログラム(米国)
- 発展する北東アジアにおける日本(米国)
- ダートマス大学における日本学基金(米国)
- コロンビア・ロー・スクール日本法研究奨学金(米国)
- シカゴ・ロー・スクール日本法・文化プログラム(米国)
- デューク・ロー・スクール日本法・文化プログラム(米国)
- コロンビア・ロー・スクール日本法研究センター25周年記念事業(米国)
- 特定非営利活動法人エルエスエイチアジア奨学金(日本)
- ドイツ社団法人日本語普及センター日本語教育事業(ドイツ)
- ジャパン・リターン・プログラム2006年日本語サミット(日本)
- 2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会(日本)
- 財団法人日本さくらの会設立40周年記念国際シンポジウム「環境・さくら・文化交流」および講演会(日本)
- 「日韓友情年2005」実行委員会企画事業(日本・韓国)

- パシフィック・ビジョン：グローバル経済における日加のリーダーシップ(米国)
- 「富士山」-北斎・広重の浮世絵、そして写真に見る日本の美(ハンガリー)
- 政経文化画人展「日韓友情年2005」特別展(日本)
- 四天王寺ワッツ(日本・韓国)
- ミュージック・フロム・ジャパン2006年音楽祭(米国)
- 第12回ホノルルフェスティバル(米国)
- ワールド・パートナーシップ・フォーラムin青森(日本)
- 「やきもの：日本陶磁4000年」展(米国)
- 日豪交流年実行委員会プロジェクト(オーストラリア)
- 日本音楽紹介ラジオ番組制作事業(中国)
- キープ国際研修交流センター整備事業(日本)
- 財団法人日本民藝館「旧柳邸修復事業」(日本)
- フランス国立人類博物館内日本民家復元事業(フランス)
- フランクフルト現代茶室建設プロジェクト(ドイツ)

《2005年度事業例》

○「日韓友情年2005」実行委員会企画事業(事業実施団体：「日韓友情年2005」実行委員会)

・特定寄附金受入額(=特定助成金支給額)208,200千円
 ・日韓国交正常化40周年を記念した「日韓友情年2005」の実行委員会により、「日韓友情の出会い」として「日韓交流シンポジウム」及び「日韓文化交流展」、「日韓友情の体験」として「日韓交流おまつり」、「日韓友情の未来」として「日韓友情年記念コンサート」及び「日韓青少年対話の広場」の5つの企画事業を実施した。各種事業の来場者・入場者は合計約8万人となり、日韓両国のマスコミで紹介され、高評を得た。

○「富士山」-北斎・広重の浮世絵、そして写真に見る日本の美(事業実施団体：日本ハンガリー友好協会)

・特定寄附金受入額(=特定助成金支給額)9,000千円
 ・同展覧会は、ハンガリー・ナショナルギャラリーにて2005年10月13日から11月13日まで開催され、葛飾北斎、安藤広重の富嶽36景、写真家・富塚晴夫氏による富士山をテーマとした作品30点を展示した。展覧会は盛況であり、多くの来館者が訪れた。

3. 税制上の優遇措置について

基金は法人税施行令第77条及び所得税法施行令第217条により「公益の増進に著しく寄与する法人」に指定されており、一般寄附金、特定寄附金を問わず、基金への寄附については以下のとおり税制上の優遇措置が受けられる。

(1) 法人の場合

通常の寄附金損金算入限度額とは別枠で、これと同額まで損金算入が認められる。

損金算入の限度額は次の計算式による。

損金算入限度額 = $\{(\text{資本等の金額} \times \text{当期の月数} / 12 \times 0.0025) + (\text{当期の所得金額} \times 0.025)\} \times 0.5$

(2) 個人の場合

所得の30%を上限として、その寄附額から5千円(2005年分以前は1万円)を差し引いた金額が所得控除の対象となる。また、相続財産からの寄附についても税制上の優遇措置がある。